

ヨーロッパ泌尿器科学会(EAU16)で ベストポスター賞を受賞

泌尿器科部長 黒川 寛史



3月にドイツのミュンヘンで開催されたヨーロッパ泌尿器科学会で発表する機会をいただきました。118か国から13,000人以上が集まり、1,400人以上の発表がありました。

ヨーロッパ泌尿器科学会は、世界中の泌尿器科医が発表したいと憧れる学会の一つであり、演題の採択率は25%程度とされています。私の演題内容は、比較的珍しい小児泌尿器科の患者さんについての手術所見や手術で摘出した組織の状態を細かく評価したものです。その子供さんが大人になるまでに後遺症を残さないためにどのようなことに注意した方が

良いのか、を考えて発表してきました。

大変名誉なことに、ベストポスター賞をいただくことができました。学会出張の際、病棟には入院患者さんが複数おられました。幸い、術後の患者さんも経過良好で、出張から帰ったときには「先生、お疲れ様」と声をかけてくださいました。患者さんがご自分の病気のことだけでなく、私の海外出張(体調・時差ボケなど)にも気をつけてくれて、非常に恐縮しました。

先日2歳の子供さんの入院・手術を行いました。今回の発表を、さっそく実践で生かすことができたのではないかと感じております。

